No. 1
2023/01/01

児玉地区文化財保護行政担当者会報

文化財だより こだま 創刊号

編集・発行：児玉郡文化財保護行政担当者会

INDEX

・美里町 猪俣の百八燈 ・・・・・・・・・・・・・・1
・本庄市 秋山諏訪平遺跡の文化財 ・・・・・・・3
・奥　付・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
・上里町 忍保神楽の首飾りの謎・・・・・・・・・・・2
・神川町 新指定文化財の紹介・・・・・・・・・・・・4

▶ 創刊記念特集 学芸員の一推し文化財!!

写真：百八燈の点火風景

美里町 猪俣の百八燈

猪俣の百八燈は、美里町の猪俣地区で行われる盆の火祭り行事です。毎年8月15日に町境にある、堂前山（どうぜんやま）の尾根に築かれた108基の塚に火を灯す幻想的な行事で、国の重要無形民俗文化財に指定されています。

猪俣地区には、平安時代から鎌倉時代にかけて、武蔵国で活躍した武士団「武蔵七党（むさししちとう）」の一つである、猪俣党の本拠地とされ、棟梁（とうりょう）の猪俣小平六範綱（いのまたこへいろくのりつな）は保元・平治の乱では源義朝の16騎に数えられ、そののちその子の頼朝にまで仕えた武将で郷土の偉人とされています。小平六の没した400年後、猪俣氏の一族が離散（りさん）した天正年間（1573～1592年）の末に小野満開（おののまんかい）という行者（ぎょうじゃ）が堂前山に草庵（そうあん）を営み、お盆が来るごとに山頂に火を焚いて一族の霊を弔（とむら）ったという伝承があります。現在でも、行事は小平六とその一族の霊を慰めるためと伝えられています。

行事は、猪俣地区内の満6歳から満18歳までの子供たちが親方・次親方・後見・若衆組・子供組に分かれて一切を取り仕切り行われます。準備は「道こさえ」・「草刈り」・「塚築き」・「人別集め」・「材料集め」などがあり、親方の指示に従って子供たちが行います。（美里町教育委員会事務局 池田匡彦）

上里町 忍保神楽の首飾りの謎

はじめに

上里町立郷土資料館では、かつて町内で行われていた「忍保神楽(おしぼかぐら)」の衣装を保存しています。そのなかでちょっと不思議に感じるものに今回紹介する首飾りがあります。

写真１：忍保神楽の首飾り
矢印の部分がメノウ製です

忍保神楽とは？

忍保神楽は、上里町大字忍保にある池上神社(いけがみじんじゃ)で行われていた神楽です。神楽とは、祭りで神にささげられる踊りのことで、演者が面を着け踊り、神々を楽しませることで豊作や幸福が訪れるとされています。また演目の多くは物語になっており、その中には神々が戦う勇ましいシーンやコントのようなコミカルなシーンもありました。特にテレビやスマホのない時代には、人々にとっても神楽は貴重な娯楽になっていました。しかし、生活様式の変化により、忍保神楽は昭和の終わり頃を最後に行われなくなり、現在では殆ど忘れられています。

首飾りの特徴

首飾り（写真１）は、「相生(あいおい)」という演目で使用されたものです。大きさは縦60cm、横50cm、ガラス製のビーズ95点とメノウという石で作られたビーズ２点で作られています。メノウで作られたビーズは勾玉(まがたま)の形をしていました（写真2）。勾玉とは、古代に使われていた装飾品の一種です。また「相生」は、男神であるイザナギと女神であるイザナミが夫婦となる様子を描いた演目で、夫婦円満を祈り演じられました。残された写真から、首飾りはイザナギの衣装であったことが分かります（写真3）。また、忍保神楽が本格的に行われるようになるのは、明治 18 年のことです。そのため首飾りが衣装として使われるようになるのもそのころと考えられます。

写真２

写真３：忍保神楽「相生」（小野英彦氏提供）

メノウ製勾玉の謎

メノウ製勾玉は、写真2のように「コ」の字状をしていました。この形の勾玉は、主に古墳時代の後期（6世紀から7世紀頃）に多く流行するもので、町内でも同時期の古墳から同様の勾玉が見つかっています。そのため「もしかして本物かも!?」と思い、2019年に勾玉の専門家である奈良女子大の大賀克彦氏に鑑定していただきました。その結果は、なんと首飾りのメノウ製勾玉は、古墳時代の本物の勾玉で間違いないということでした。そのため、首飾りは古墳等の遺跡から出土した勾玉を明治時代に再利用して作られたものであると考えられます。

おわりに-さらに深まる謎-

大賀氏の鑑定により、忍保神楽の首飾りには本物の勾玉が使われていることが分かりました。そうなると、これらの勾玉はどこから来たのかという疑問が浮かんできます。先にふれたように町内でも勾玉は古墳から多く見つかっています。しかし、忍保神楽が行われていた大字忍保では、これまで古墳は全く発見されていません。別の場所から持ち込まれたものなのか、あるいは我々の知らない未知の古墳があったのか。謎は深まるばかりです。

《参考文献》

・埼玉県教育委員会『埼玉の神楽』1980年
・埼玉県立歴史と民俗の博物館『金鑽神楽Ⅰ・Ⅱ』2009・2010年

（上里町教育委員会 林 道義）

本庄市　秋山諏訪平遺跡の文化財

はじめに

2021年10月4日～12月21日にかけて、本庄市児玉町秋山の秋山諏訪平遺跡（あきやますわだいらいせき）にて、発掘調査が実施されました。

写真１：秋山大町遺跡出土の子持勾玉（参考）

秋山諏訪平遺跡は国道 254 号の南側、本庄市と児玉郡美里町との市町境に位置する遺跡で、古墳時代後期を中心とする大規模な集落遺跡であることが分かってきています。

とりわけ、2021年度に実施された発掘調査では、古墳時代後期の「鈴付高坏（すずつきたかつき）」という非常に珍しい遺物が発見されました。

本遺跡周辺では、これまでにも子持勾玉（こもちまがたま）や剣形石製模造品（けんがたせきせいもぞうひん）などの一般の集落遺跡ではあまり見られない遺物が発見されており、注目を集めています。

秋山諏訪平遺跡の鈴付高坏

写真2の遺物は、古墳時代後期の住居跡から出土した高坏脚部（図1参照）の破片です。

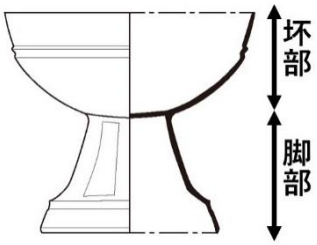

図１：高坏イメージ図
左半ー正面から
右半ー断面図

破片ではありますが、底面がふさがれた特徴的な形態をしており、底面をふさがない一般的な高坏とは形態が異なります。本遺物によく似た高坏は、群馬県などでも検出されており、それらの検出例から、本遺物が「鈴付高坏」と呼ばれる特殊な高坏の一種であることが分かりました。

鈴付高坏は、西日本、特に中国地方に多く、関東地方での発見例は非常に少ないもので、近年の発掘調査では他に、群馬県の金井下新田遺跡（かないしもしんでんいせき）で検出され、報告されています（藤野 2021）。

また、本遺跡に隣接する秋山大町遺跡（あきやまおおまちいせき）でも前述のものと異なる形態の鈴付高坏の破片が検出されています。こちらは、坏部と脚部の間に鈴となる球体がはさまるタイプの鈴付高坏で、鈴部分は中に小石がつめられており、振ると高い音が鳴ります。

写真２：秋山諏訪平遺跡出土の鈴付高坏（上ー横から・下ー底から）

これらの鈴付高坏は、集落内の祭祀（さいし）で用いられたものと考えられます。

おわりに

本発掘調査の成果については、「令和4年度最新出土品展」にて、展示予定です。

写真３：秋山大町遺跡出土の鈴付高坏（参考）

【最新出土品展　会場・日程】

児玉文化財整理室：2月1日～3月17日
本庄早稲田の杜ミュージアム：3月21日～5月21日

《参考文献》

・本庄市遺跡調査会『秋山大町遺跡』2010年
・本庄市遺跡調査会『秋山大町東遺跡・秋山諏訪平遺跡Ⅲ』2010年
・本庄市教育委員会『秋山諏訪平遺跡Ⅴ』2022年
・藤野一之「金井下新田遺跡出土須恵器の基礎的考察」小島敦子ほか『金井下新田遺跡　古墳時代以降編』（公財）群馬県埋蔵文化財調査事業団2021年

（本庄市教育委員会　福岡　佑斗）

神川町 新指定文化財の紹介

写真１：平遺跡再葬墓出土土器

はじめに

令和3年8月31日に「平遺跡再葬墓出土土器（たいらいせきさいそうぼしゅつどどき）」13点が神川町指定有形文化財になりました。

指定された土器は神川町大字下阿久原（しもあぐはら）地内の地下に眠る平遺跡の発掘調査によって出土したものです。

平遺跡はどんな遺跡？

平遺跡は神川町大字下阿久原地内の神流川（かんながわ）に面した段丘の縁辺部に位置し、縄文時代から平安時代までの遺構が確認されている遺跡です。児玉地域では数少ない縄文時代の終わりから弥生時代の始め頃の土器が出土しています。

再葬墓ってなに？

再葬墓とは、遺体を白骨化させた後に、その骨を土器などに入れ埋納する葬法です。再葬の風習は縄文時代後期から古墳時代までおこなわれていました。

骨を壺または甕などの土器に納めるものは壺棺再葬墓（つぼかんさいそうぼ）と呼ばれ、東日本の弥生時代前期から中期を中心におこなわれていました。埼玉県内では 14 遺跡から再葬墓が発見されていて、その内2遺跡が神川町に所在しています。

どうして指定文化財になったの？

再葬墓から出土した土器の表面に当時の東海地方や東北地方で流行していた文様が施されていることから、他地域との文化の接触を知ることができます。さらには、弥生時代の土器としては埼玉県で最も古い土器の可能性があることから指定文化財となりました。

写真２　平遺跡の再葬墓

最古級の土器を見てみよう！

今回紹介しました「平遺跡再葬墓出土土器」は現在、神川町多目的交流施設1階にある文化財展示室にて、指定となった13点全てを展示しています。

この展示室には、神川町の神泉地区（旧神泉村）の遺跡から出土した土器を中心に展示しています。

写真３　多目的交流施設文化財展示室

《参考文献》

・神泉村教育委員会 『平遺跡発掘調査報告書 A～E 地点』 2007年
・栃木県立博物館 『弥生人の祈り－東国の再葬墓－』 2013 年

（神川町教育委員会 北山 直人）

児玉地区文化財保護行政担当者会報
文化財だより こだま 創刊号
編集/発行 児玉地区文化財保護行政担当者会
令和 5 年 1月 1日 初版